View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

brought to you by CORE

Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Surgery in node-positive gallbladder cancer: The implication of an involved superior retro-pancreatic lymph node

著者名	Rahul Kumar Chaudhary
発行年	2019-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032635

主 論 文 の 要 約

Surgery in node-positive gallbladder cancer:

The implication of an involved superior retro-pancreatic lymph node

リンパ節転移陽性の胆嚢癌に対する外科治療：

上膵頭後部リンパ節転移の意義

東京女子医科大学　消化器・一般外科　学教室
（指導：山本雅一 教授）㊞
Rahul Kumar Chaudhary

Surgery 誌　第 165 巻　第 3 号　541 頁～547 頁（2019 年発行）に掲載

【背景】

リンパ節転移陽性の胆嚢癌患者に対する治療法は、いまだ解決されていない重要な問題である。特に上膵頭後部リンパ節には容易に転移を起こしやすいものの、それを有する患者の治療法に関しては、定まっているとはいえない。米国の癌取り扱い規約（American joint committee on cancer, AJCC）でも、胆嚢癌の上膵頭後部リンパ節の取り扱いに関して、はっきりと言及していない。

【目　的】

胆嚢癌における上膵頭後部リンパ節転移の意義を検討する。

【対象および方法】

東京女子医科大学 消化器・一般外科にて 1974 年から 2016 年までの胆嚢癌切除連続 426 例のうち、リンパ節転移陽性かつ遠隔転移のない 165 例を対象と

した。上膵頭後部リンパ節転移陽性患者と、上膵頭後部リンパ節転移のなかった患者をリンパ節転移の状況別に分け（N1, 1～3 個; N2, 4 個以上; M, 遠隔リンパ節転移）生存率を比較した。また、生存率に影響する因子について単変量/多変量解析を行った。米国の癌取り扱い規約 AJCC 第 8 版を用い検討した。

【考　察】

上膵頭後部リンパ節転移陽性かつリンパ節転移1-3個の患者（26例）の5年生存率は、上膵頭後部リンパ節転移のないリンパ節転移1-3個の患者（69例）の5年生存率と同等で（40.2% vs 32.9%, p = NS)、4個以上のリンパ節転移 or 遠隔リンパ節転移を有する患者の5年生存率よりも有意に良好であった（P < 0.05). 単変量/多変量解析では、術中出血量（ハザード比[HR] 1.58）、組織学的癌遺残（HR 1.87）、およびT4 (門脈本幹 or 肝動脈浸潤, 2臓器以上の多臓器浸潤)（対T2, HR 3.44）は独立予後危険因子であった。また、リンパ節転移陽性例でも, 膵頭十二指腸切除による5年生存例を, T2 (漿膜下層 or 胆嚢床部筋層周囲結合織 浸潤）患者（T2, 9/12; T3 7/22; T4 1/21）で多くみとめた。

【結　論】

胆嚢癌における上膵頭後部リンパ節転移患者の予後は、リンパ節転移 1-3 個の患者の生存率と同等であり、予後を悪化させていなかった。胆嚢癌における上膵頭後部リンパ節は、所属リンパ節として取り扱われるべきと思われた。